



福岡県小郡市大板井1143-1
電話番号 0942-72-7221
FAX 0942-72-7222



発行人

こぐま福祉会
「そら」編集委員会



<http://www.koguma.ed.jp>

☆12月もちつき大会☆



新年の「挨拶」を上げます

平成最後のお正月になりました。今年も皆様にとって最高の年でありますようにお祈りしています。

さて、近年全国的に、発達に気になる子、保育園・幼稚園・学校などに行きたがらない子、お友達が出来ない等々、が急増している事で、国の文科省・厚生省はその対応に追われています。20〜60歳の大人にも同じ症状があり、社会に溶け込めない人があわせて人口の約10%に達していると推測されています。

なぜ、こんなに急増しているのでしょうか？
一部の専門職(家)は、少子化・子育て機能の低下・核家族化等々意見が様々で、はっきりした理由と、対応策は不明です。が、近年、医学(特に小児科・精神科)の脳神経系の研究が進み人間の発達が最も大切な胎児期→新生児期→乳児期→幼児期→学童期→思春期→成人期へと、発達成長期に「脳」に何らかの異常が起こっている事が、少しずつですが解明されつつあります。

そこで大切なのは「子育て・療育・社会(環境)」の在り方です。『人間は、心と身体を備えた社会的存在である』(高木俊一郎)昭和57年総合教育・療育論提唱)以来、「こぐま」の療育理念とし37年を迎えました。

全ての人間の子どもには、必ず「発達の道筋・順序・段階」があり、又、「個性・特性」があり、様々です。

大きな要因として考えられる事は①急速に進化した文化的生活(運動や実体験など)の不足②食生活(日本人は草食動物的民衆だが、動物性食品が多いこと)③育児機能の低下(従来の3歳までの、母親の関わる時間が減少)④保育・教育の場が教え込みや強制的が強い⑤個性・特性が認められていない⑥大人中心の生活リズムの影響⑦少子化傾向⑧発見・早期介入が遅い⑨診断する医師が少ない⑩専門職・担当者の不勉強。等が大きな課題と考えられます。その他、*行政の遅れ(相談機関等)*表面に現れた症状のみにこだわらない*完治はなくとも必ず変化有。

本年も、ゆつくり、焦らず、子どもさんが今、何をやりたがっているのか?が発達のポイントです。一緒に頑張りましょう!

(理事長 大熊 猛)

心の窓



外来
じゅな 珠那くん

今から6年前、4064gと驚く体重でこの世に誕生した珠那。我が子を抱いた感動もつかの間：一日経っても尿が出ず聖マリアへ。検査後、他にも異常があり、そのまま入院となった。その後、担当医による説明が淡々と告げられるが、全く耳に入らず震えが止まらず込み上げて来た。まさか我が子がダウン症：。何とも言い様の無い不安な気持ちでした。しかし、障害の有無関係なく、やっとな授かったこの命だけでも助けて下さいと夫婦で頼んだ。

入院中の合間をみて、ダウン症について本を読んだが難しく、更に不安を煽る内容ばかりでした。私はダウン症を育てる訳ではなく珠那を育てるんだ！！そう思うと肩の荷が下りた気がした。

念願のこぐま学園に行きだしたのは生後5ヶ月。珠那の特徴、成長の過程、色々な事を細やかに説明してもらい、とても心強かった。沢山の情報が詰まったこの場所が大好きで居心地が良かった。その為、いつも訓練の30分前には到着していた(笑)

ママベッタリでとにかく泣きべそだった珠那も今は古株で沢山の方から顔を覚えてもらい、声をかけてもらっています。共感できる沢山のママ友とも出逢え本当に有難い場所です。

珠那はハンディを背負ってでもこの世に生まれ、パパママの愛情をうけたかったんだね。五体満足に産んでやれず本当に申し訳ない気持ちで一杯だけど：その分、日々笑って暮らして行けるようにと夫婦で話しています。ダウン症！一言では現せないけど、もしも珠那がダウン症でなければこの世に誕生してなかった：そう思うとダウン症があっても珠那を産んだ事、珠那の親になれた事、珠那という存在に夫婦で感謝しています。

2度の手術も乗り越え、日々の訓練も本当に良く頑張ってくれて頭が上がりません。珠那から学ぶ事も数知れませんが。成長はゆっくりでもゴール目指してポジティブ精神で楽しく生きて行こうと思います。(珠那の母)



こぐまLINE



言語聴覚士
かとう 加藤

皆さん、こんにちは。言語聴覚士の加藤です。

私は、筑後川と耳納連山に囲まれた巨峰と植木が有名な久留米市田主丸町で生まれ育ちました。小中学生の頃は、習い事やソフトテニスの部活、友達との遊びに明け暮れる毎日を送っていました。高校は、文武両道の学校に入学し、朝の7時30分から課外授業、一日の授業が終わるとすぐに部活。土日も部活の試合や課外で多忙な日々でしたが、充実した3年間を送ることができました。高校3年生になり、卒業後の進路について考えた時、小さい頃から親に連れられて特別支援学校の文化祭などに行っていたこともあり、医療系の道に進みたいと思いました。

勉強勉強の毎日で帰りも遅く、通学に時間がかかることや自立した社会人になるためという理由から、3年生からの2年間は大学の近くにアパートを借りて人生初の一人暮らしを経験しました。当たり前のようにご飯やお弁当ができていて、洗濯物が豊んである生活から一変、身の回りのこと全てを自分ですることの大変さを知りました。一人暮らしという貴重な経験をさせてくれた両親に感謝しつつ、勉強にも集中できました。

医療系の職種を調べる中で、人が生きていく上で大事な食事や、生活をより良くするために必要なコミュニケーションの取り方を一緒に見つけていく「言語聴覚士」という職業を知りました。私もそのような仕事に就きたいと思い、言語聴覚士の資格が取れる大学へ進学しました。大学2年生までは実家から通っており、家に帰ったらご飯ができています。

こぐま学園との出会いは、大学3年生のときの実習です。初めての実習で、何もわからず緊張していた私に、言語聴覚士という仕事のやりがい、社会人として働くことの楽しさや大変さを優しく丁寧に教えてくださる先生方や、元氣いっぱいの子どもたちを見る中で、私もここで働きたいと思ひ、念願叶い就職することができました。

日々の訓練の中で、子どもたちや保護者の方々からたくさんのお話を学ばせていただき、元氣をいただいています。命に関わる食事のことを考え、子どもたちの成長を身近に感じている中で、とても大事な時期に関わらせていただいていることを日々感じています。まだまだ勉強不足の私ですが、これからも子どもたちと一緒に成長していけるよう頑張ります。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

第3回マラソン大会開催!



11月2日(金) 秋晴れのさわやかな空のもと、「ゆう・はぐ・しろくま」のマラソン大会を行いました。小郡市の陸上競技場を貸し切った開催。子ども達はトラック1周400メートルをそれぞれの方法で走ります。子どもたちが一生懸命に進む姿に勇気と感動をもらいました。

これからも、子ども達のチャレンジを応援していきたいと思えます!(マラソン大会係 宮永)

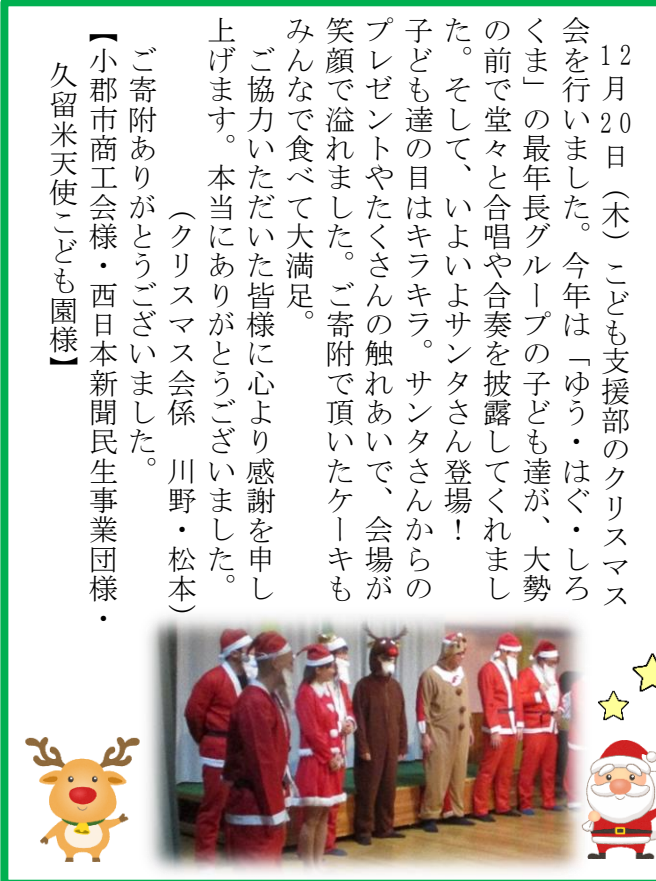
おいもほりしたよ!



記録的な猛暑の影響で、なかなか育たなかったこぐまのさつまいも。営繕スタッフの尽力のお陰で、何とか、芋掘りを行うことができました。出てきた芋に目をまん丸にする子ども達の表情から、生きた経験の大切さを感じます。取れた芋は、園庭で焼き芋をしたり、給食のお味噌汁に入れてもらったりしていただきました。来年は、お土産にできるくらい豊作になるようにお世話を頑張りたいと思えます。

(保育士 西本)

♪クリスマス会♪



12月20日(木) こども支援部のクリスマス会を行いました。今年「ゆう・はぐ・しろくま」の最年長グループの子ども達が、大勢の前で堂々と合唱や合奏を披露してくれました。そして、いよいよサンタさん登場! 子ども達の目はキラキラ。サンタさんからのプレゼントやたくさんの触れあいで、会場が笑顔で溢れました。ご寄附で頂いたケーキもみんなで食べて大満足。

ご協力いただいた皆様に心より感謝を申し上げます。本当にありがとうございます。

(クリスマス会係 川野・松本)

ご寄附ありがとうございます。
【小郡市商工会様・西日本新聞民生事業団様・久留米天使こども園様】

尾久保研修所みんなの館もちつき・クリスマス会

12月23日(日)に今年で13回目となる『みんなの館 もちつき&クリスマス会』を行いました。

午後からの雨天予報の中、何とか餅つきを終わらせたいと全員で頑張りましたが、11時を過ぎた頃から雨が降り出し、テントで雨宿りしながらの餅つきとなりました。

午後のクリスマス会では、恒例のサックス演奏やスタタさんからのプレゼントに続き、スタッフとスタタさんの競演による今年流行のDA PUMP『U.S.A.』のダンス!会場はこの日一番の盛り上がりを見せました。

(尾久保研修所 梅野)



祝 成人式

12月11日(火)こぐま福祉会をご利用されている方の成人式を行いました。今年「Work Step」の平田さん、「愛らんど」の安達さん、上野さん、吉開さんが、成人を迎えられました。

少し緊張した面持ちで式は始まり、参列した方々もキリッとした表情で入江事務長の祝辞を聞かれました。スライドショーでは、ご自身の写真を真剣に見つめる我が子の姿を見て、優しく微笑むお母様の方への感謝の気持ちを含めた花束贈呈が行われ、とても感動的な式となりました。20年という節目に立ち会えた事を本当に光栄に思います。これからも沢山の経験と出会いがありますように。

(生活支援員 川波)

成人おめでとうございます!



CDS職員研修会

11月8日(木)～9日(金)『全国児童発達支援協議会 中四国・九州ブロック職員研修会(CDS)』が岡山県で開催され職員3名で参加しました。『地域で暮らす障害児、家族を支えるために乳幼児期から成人期まで、ライフステージを通じた支援とは』というテーマで、岡山県で活動されている医師の方の基調講演や大学や特別支援学校の先生方による記念講演を拝聴しました。どちらも実践的で日々の療育にすぐにも取り入れることができるような内容でした。また同時に子ども達を取り巻く支援がなくなっていくことの大切さを再確認し、充実した2日間となりました。今後、スタッフ間で共有してよりよい支援を提供できるように頑張ります。(保育士 川野)

日本小児診療多職種研究会

11月24日(土)～25日(日)に北九州市で開催された「日本小児診療多職種研究会」に参加してきました。全国各地から医師を始めとした医療職の参加者が多く、様々な小児分野における講演、口頭発表を拝聴いたしました。

私は『保育所等訪問支援事業を用いた学校との連携の取り組み』を口頭発表で行い、貴重なアドバイスを受けることができました。今後の理学療法場面や保育場面での支援に活かせる充実した研修会の参加となりました。(理学療法士 伊藤かおり)

発達支援セミナー報告

11月4日(日)小郡市生涯学習センター七夕ホールにて「第10回発達支援セミナー」を開催いたしました。

今回のテーマは『重度な障害を持つ児者に対する生活支援』特別講師として「重症児者福祉医療施設 ソレイユ川崎」の作業療法士である岸本光夫先生をお招きし、貴重なお話を拝聴する事が出来ました。また、パネルディスカッションでも「多機能型事業所ミルキウエイ」の管理者である寺澤友子先生を交えて『ライフステージに合わせた生活支援とは』について参加者の皆様とともに活発な意見交換が行えました。

今回も多くの方に参加して頂き、感謝申し上げます。(理学療法士 伊藤かおり)

園内研修報告

11月29日(木)に「第15回こぐま福祉会園内研修」を開催しました。今回は『真・深・新発見!』というテーマの下、各部門から12演題の発表と特別講演を行いました。発表では新たな取り組みについての報告も多く、絶えず変化しているこぐま福祉会であることを改めて感じました。また、特別講演として障がいを持つお子様を育て、地域で活動もされている登山万佐子様より「障がいを持つ子どもが地域で育つために」というテーマで、家族の思い、また様々な活動を展開されている立場から貴重なお話を伺うことができました。

今後研修を深め利用者の皆様への療育や支援へ繋げていきたいと思えます。(研修委員会 橋田)

就学学習会のお知らせ

次の日程と内容で就学学習会を行います。

参加対象者は、2020年度就学予定のお子様のご保護者の方です。是非ご参加ください。

第1回 2月4日(月)

「就学決定までの流れと現在の教育制度について」

第2回 3月11日(月)

「保護者による経験談」

時間 10時～11時30分

場所 小郡市総合保健福祉センター

※申込用紙にご記入の上、受付までご提出ください。詳しくは、担当スタッフ、又は相談員までお尋ねください。

(相談員 福富)

全国大会行ってきました!!

去る10月、福井県で開催された「福井しあわせ元気大会」に生活介護事業の利用者、秋山さんが出場されました。毎年、こぐま福祉会より参加している「ときめきスポーツ大会」のフライングディスク競技優秀成績による全国大会の出場です。

お父様と2人での県外遠征、結果は5位!この経験が秋山さんにとって大きな自信に繋がる事を願っています。おめでとうございます!

(生活支援員 藤崎)



新入職員紹介

○松本浩児(就労支援員)
12月1日付入職

お詫びと訂正

そら11月第15号掲載「新入職員紹介」の記事において、氏名の誤りがございましたのでお詫びして訂正いたします。誤)井上朋子 正)井上朋美 (そら委員会)

行事予定



- 1月 24日(木) 避難訓練
- 2月 4日(月) 就学学習会
- 16日(土) 避難訓練
- 18日(月) 3月2日(土) ゆう・はぐ・しろくま 個別面談
- 3月 6日(水) 避難訓練
- 11日(月) 就学学習会
- 13日(水) べあくクラブ ボーリング大会
- 20日(水) ゆう お別れ遠足
- 27日(水) 就学お祝い会
- 28日(木) 4月1日(月) 児童発達支援・放課後等デイ

29日(金)～30日(土) 新年度準備のため休園

交流保育



- 1月22日(火)
- 2月14日(木)
- 2月8日(金)
- 3月5日(火)

久留米天使こども園

